

治罪法全訓集 第六卷

同法省記錄文庫
第五百七十號

第五號
第一架
第六

司法省
第九號
寄贈圖書文庫

司法省記錄文庫
第一一號

XB 620
T 6
8 f

司浩省
歌錄山
月山甲

治罪法令訓集

第三編三

第三章 豫審
 第一節 令狀
 第二節 密室 監禁
 第三節 證據
 第四節 質 被告人訊問及對

XB 620	
T	6
8	f

豫審判事檢事ノ
請求ニ因リ豫審ヲ
為ス中其犯若クハ
從犯ト認知シ又ハ
思料シタル中檢事
ノ請求ヲ待タズ直
ニ豫審ヲ為シ其
旨ヲ檢事ニ通知
ス

豫審ハ密行ヲ主
トスルヲ以テ總テ傍
聽ヲ許サズ

岡山始審廳判事 十四年十二月廿八日請訓 治罪法

第三章 豫審

第百十三條ニ依リ豫審判事檢事ノ請求アリ

第百十三條 現行ノ重罪

タルニ因リ豫審ヲ為ス時被告人ノ申立テ他ノ

輕罪ヲ除クノ外豫審判

正犯若クハ從犯等ヲ發覺シタル時ハ治罪法

事ハ前章ニ定メタル規則

第九十三條第二項ニ依リ處分可致ハ勿論ト

ニ從ヒ檢事又ハ民事原

心得居候得共被告人其罪ヲ自供セサル

告人ノ請求アルニ非ラサレ

中其犯若クハ從犯ト認知シ又ハ思料スヘキ

ハ豫審ニ取掛ルルヲ得ズ此

者アリタル場合於テハ治罪法第九十六

規則ニ背キタル時ハ其請求

條ノ規則ニ從ヒ之ヲ檢事ニ告發スヘキ者ニ

ヨリ以前ニ係ル手續ノ效ナ

候哉 訓示 豫審判事ハ直ニ豫審ヲ為

カル可シ

シ其旨ヲ檢事ニ通知スル儀ト心得ヘシ

十四年八月第廿九号布告

開拓使 十四年十二月十四日贊問 刑事裁判公判

治罪法中豫審判事勾

中傍聽差許候ハ專ラ公平ヲ主トセシモノト

引狀ヲ發シ勾引セシメタル

豫審

第百十三條

同

去

八頁

存候就テハ假令豫審中タリ凡其豫審官
 ニ於テ傍聴差許シ候凡豫審上差支無之
 ト見認メ候分傍聴差許不苦儀勿論候哉
 「回答」豫審ハ密行ヲ主トスルヲ以テ總テ傍
 聴ヲ許サルトス

被告人ハ時宜ニ依リ其訊問
 期限四十八時間ニ在ル夜間
 ニ限リ裁判所又ハ最寄
 警察署留置場ニ入置
 (ハシ)

豫審

司
 法
 官

第百十四條 豫審判事ハ
 重罪輕罪ニ付キ直チニ
 告訴又ハ告発ヲ受ケタ
 ル時ハ召喚状ヲ以テ被
 告人ヲ呼出シ之ヲ訊問
 スルコトヲ得若シ引續キ
 取調ヲ為ス可キ者ト思
 料シタル時ハ其事件ヲ
 換事ニ送致ス可シ

告人ヲ放免ス可シ但後
日起訴ヲ為スノ妨礙ト
為ルコトナカル可シ

第百十六條 被告人所在

ノ地ノ豫審判事直チニ
告訴告発ヲ受ケ又ハ換
争ヨリ具送致ヲ受ケ被
告事件急速ヲ要スル時
ハ通常ノ規則ニ從ヒ被
告人ノ訊問又ハ換証處
分ヲ為シタル後証憑及
ヒ事實参考ト為ル可キ
争物ヲ犯罪ノ地ノ豫審
判事ニ送致ス可シ
若シ禁錮以上ノ刑ニ該
ル可キ者ト思料シタル

時ハ勾留状ヲ以テ被告
人ヲ送致スルコトヲ得

第百十七條 檢事ハ豫審

中何時ニテモ豫審判事請
求シテ訴訟書類ヲ換閱
スルコトヲ得但二十四時
内ニ之ヲ還付ス可シ
又必要ナリトスル處分
ニ付キ臨時其請求ヲ為
スコトヲ得

準現行犯ト雖モ司法警察官ニテ令状ヲ発スルヲ得

司法警察官巡査ニ令状ヲ發シテ準現行犯ヲ捕縛スルモ苦シカラズ

常人ヲ現行犯ト見認メ告發セシ後該部巡査被
告人ヲ見認ルト雖モ準現行犯トシテ直ニ捕縛スルヲ得
令状ヲ以テ逮捕ス但現行犯ト見認メテ又ハ之ヲ追跡セシトスル際逃走セシトスルハ此限ニアラス

茨城縣 十四年十一月十五日付 本年第四十六号市告第

六項治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官

第百十八條 豫審判事ハ

ハ云々當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令状ヲ發シ不苦トアルニ依リ準現行犯ト雖モ無論司法警察官ニテ令状ヲ發スルヲ得ル儀ト相心得可然哉
指令 伺ノ通

換事又ハ民事原告人ノ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事件ヲ受理シタル時ハ被告人ニ對シ先ツ召喚状ヲ發ス可シ但召喚状ノ送達ト被告人出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

前條果シテ準現行犯ニモ適用スルモノトセハ司法警察官巡査ニ令状ヲ待タスシテ準現行犯ヲ捕縛スルモ不苦儀ト相心得可然哉
指令 伺ノ通

ノ猶豫アル可シ

何人ニ限ラス現行犯ヲ見認メ告發シテ直ニ捕縛スルモ不苦義ト相心得可然哉
指令 令状ヲ以テ

召喚状ニ因リ出廷シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ又遅クトモ

令状

第百十八條

司

法

第

百

第百十八條

司法警察官ニ接見シテ追跡シ又ハ之ヲ喚問
セントスルニ當リ逃走セントスルハ伺ノ通
兵庫縣十四年十月八日付本年第四十六號布告治罪
法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令状ヲ發
スルヲ得サル旨記載有之候得共當分ノ内現行犯
ノ場合ニ限り令状ヲ發シ苦ミカラストアリ而シテ第
二百五條ハ固ヨリ現行ノ犯所ニ臨檢シタル場合ナ
ルニ特ニ現行犯ノ場合ニ限リトアルハ犯所ニ臨檢
セサル時ト雖モ令状ヲ發スルヲ得ヘキ儀ニ候哉

豫審ヲ要セス直ニ公判ヲ發
ル場合被告ノ人定リタル
ニ所テケテ若クハ逃亡シテ
ルトキハ公判ニ付シタル上
テ公判ノ事ニ令状ヲ發ス
ルヲ請求ス

逮捕スヘシ但現場被告人ヲ追跡シ又ハ之ヲ喚問
セントスルニ當リ逃走セントスルハ伺ノ通

出廷ノ日ヲ過クルヲ
得ス

奈良始審廳檢事十五年一月十二日付上墨 治罪法中豫
審ヲ要セサル被告事件ニ付令状ヲ發付ノミヲ豫
審判事ニ請求スル法條無之又豫審判事ニ付テ
指令伺ノ通

豫審ヲ為サル事件被告人ノ換束ノミニ付請求
ヲ受ケ令状ヲ發付スル手續モ亦法條無之左リト
テ換束ヲ要スル為メ故ラニ具事件ノ豫審ヲ請
求スル法律ノ活用ヲ失フ者ト思料ス依之右等
ノ事犯ニ付テハ現行犯ト均シク檢察官ニ付テ直
チニ令状ヲ發付シ苦ミカラス候哉「指令伺ノ趣
公判ニ付シタル上ニテ公判判事ニ令状ヲ發スル
ヲ請求スルヲ得ヘシ

福岡縣十五年一月十七日付治罪法第二百五條第百四
條ノ場合及ビ昨年御省丙第拾七号達令状

ヲ發スル片ハ書記ヲ要セス可然哉「指令」
令状面ニハ書記ヲ要セサルモ苦ミカラス 電報

青木林縣十五年一月十七日付急劇ノ場合ニ付テ換

令状面ニハ書記ヲ要セサ
ルモ苦ミカラス

現行犯現行犯ノ場合ニ
付テハ令状ヲ發スルモ速捕

令状

第四百十八條ノニ

同 去 前

司法警察官ヲ令収監シ
ル場合ニテハ、検事、検印
ヲ要セス但収監状ヲ受ル
ラ得ス

非現行犯トモ
知書ヲ以テ証人鑑定人ヲ
出シ又供述ヲ聽クヲ得

争又ハ司法警察官ヨリ発スル令状ハ、所省丁卒
或指八号違書式ニ據ラサルモ、只効ヲ有スル哉
「指令」現行準現行犯ノ場合ニ於テハ、令状ヲ
待タズ逮捕スルヲ得ル者トス 電報

長岡始審廳檢事 十五年一月廿日請訓
全十五年三月三日訓示 明治十四年

省丁第二十八号ヲ以テ令状書式、即違相成候處、右
書式中、勾引状、勾留状、収監状等ニ、檢事ニ於テ必
捺印スヘキ答ノ處、治安裁判所々在ノ地ニアラサル答
警察署又ハ分署ニ於テ右令状ヲ発スル時ハ、檢
事捺印ヲ要セサルハ、勿論ノ儀ト相心得可然哉
「訓示」見込ノ通但収監状ヲ発スルヲ得
ス

松江始審廳檢事 十四年十二月廿日付
十五年二月四日付 非現行罪ヲ

被告トモ、雖モ輕易トモ、
件ニ付テハ、亦全シ但夫レハ
為メ起訴ノ處分ヲ違
延ス可ラス

右候状ヲ除ク外、令状ハ、檢
事ニ於テ又執行ヲ指揮ス
ヘキニ付、檢事ノ官印ヲ押
捺ス但現行犯ノ場合ハ、此
限ニアラス

搜查スルニ付キ令状ニ非スレテ尋常ノ呼出状ヲ
以テ被告人、只他訴訟關係人ヲ呼出シ、一應ノ尋
問ヲ為ス、一ヲ得ヘキ哉、「指令」非現行犯トモ
モ通知書ヲ以テ証人鑑定人ヲ呼出シ、其供述
ヲ聽クヲ得サルニ非ス、被告人トモ、雖モ輕易
ナル事件ニ付テハ、亦同シ但夫レカ為メ起訴
ノ處分ヲ遅延ス可ラス

和歌山始審廳檢事 十五年二月廿日付
全十五年三月廿日付 明治十四年丁

第廿八号ヲ以テ送達書等ノ書式、即違相成候處
右書式中、豫審判事ノ発スル勾引状、勾留状ニハ
檢事ノ官印ヲ押捺スルヲ相成居候、然ルニ治罪法ニ
依レハ豫審判事ハ、檢事ノ意見ヲ聽クナクテ、勾
引状、勾留状ヲ発スルヲ得ルヲ相成居候、ニ付、右

令状 第百十八條ノ三

司法官

第百十九條 豫審判事ハ

召喚状ヲ受ク可キ被告人
其管轄地内ニ住セサル時
ハ訊問ス可キ條件ヲ明
示シテ被告人所在ノ地
ノ豫審判事ニ其處分
ヲ囑託スルヲ得

第五百三十一條 豫審判事ハ尤ノ
 場合ニ於テ直ニ勾引状ヲ
 發スルコトヲ得
 一 被告人定リタル住所アラサ
 ル時
 二 被告人罪証ヲ湮滅シ又ハ
 逃亡スルノ恐アル時
 三 被告人未遂罪又ハ脅迫
 罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ
 遂ケントスルノ恐アル時

豫審判事遠隔ナル
 警察署ニ令状ヲ傳ヒ
 之ヲ執行セシタル由
 直ノ配置少キ地ニ於テ
 ハ徒東傳通ノ法ニ從
 ヒ之ヲ護送ス

茨城縣 十四年十二月廿四日同
 十五年一月十一日付

治罪法第百二十二條ニ勾引状

第百二十二條 勾引状執行ノ

執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令状ヲ發シタル豫審判
 事ニ被告人ヲ引致スヘントアリ豫審判事カ其罷在
 ノ地ノ巡查ヲシテ令状ヲ執行セシタル由ハ之ヲ豫
 審判事ニ勾引スルニ於テ敢テ差支ナカルヘント虽モ
 遠隔ナル警察署ニ令状ヲ傳ヒ之ヲ執行セシメタ
 ル由ノ如キ一々其巡查ヲシテ被告人ヲ豫審判事ニ
 勾引セシメサルヲ得サル者ナリトセハ當縣ノ如ク
 巡查ノ配置少キノ地ニ於テハ之カ為メニ其署ヲ
 空フスルニ至ルヘシ如此實際差支アルヲ以テ徒
 東傳通ノ法ニ從ヒ之ヲ護送為致度此段相伺候
 指令 伺ノ通

命ヲ受ケタル者ハ其令状
 ヲ發シタル豫審判事ニ被
 告人ヲ引致ス可シ
 勾引状ヲ以テ引致シタル被告
 人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス
 可レ若シ其時間ヲ經過ス
 ル時ハ勾引状ヲ發スルニ非サ
 レハ當然之ヲ釈放ス可シ
 十四年八月 第百九号布告治
 罪法中豫審判事勾引
 状ヲ發シ勾引セシタル被
 告人ハ時宜ニ依リ其訊問

令状

第百二十二條

司 法 省

司 法 省

勾引状の發シ勾引
セシメタル被告人連
廳後休暇日トモ
留置場ニ入レ置ク

勾引状執行ノ命ヲ
受ケタル巡査ハ其執
行シタル月日時ヲ令
狀ニ記入シ豫審判
事ノ訊問期限ハ被
告人ヲ引致シタル時
ヨリ起算ス

<p>愛媛縣十四年三月廿六日同 十五年一月十七日 本年第五十九号公布中</p>	<p>期限早八時間ニ在ル夜</p>
<p>署 留置場ニ入置クヘシト有之然ラハ退廳後又ハ</p>	<p>間ニ限り裁判所又最寄</p>
<p>日曜及ヒ祭日等ノ如キ休暇日ニ當ルモ古被告人ハ</p>	<p>警察署留置場ニ入置</p>
<p>裁判所當直者ニ引渡スヘキ儀ニ有之候哉「指令</p>	<p>クヘシ</p>
<p>退廳後休暇日トモ留置場ニ入置クヘシ</p>	<p>十五年前司法省丙第四号</p>
<p>弘前始審廳判事同十五年一月十七日請訓 請訓書署之</p>	<p>達</p>
<p>「訓示」請訓ノ趣勾引状執行ノ命ヲ受ケタル</p>	<p>治罪法ニ定メタル勾引状ノ</p>
<p>巡査ハ其執行シタル月日時ヲ令狀ニ記入シ豫</p>	<p>期限ハ總テ休暇ノ日ヲ美入</p>
<p>審判事ノ訊問期限ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ</p>	<p>ス可カラズ但平常休暇ナキ</p>
<p>起算スヘキ者トス</p>	<p>官署ニ付テハ此例ヲ用ヒサル</p>
	<p>儀ト心得此旨相達候事</p>

法律省

<p>令狀</p>	<p>司 長 自</p>
-----------	----------------------

証
法
第

免シ又ハ前ニ送シタル勾
引状ヲ以テ管轄豫審
判事ニ送致ス可キノ言
渡ヲ為ス可シ

第百二十五條 豫審判事ハ

召喚状又ハ勾引状ヲ受ケタル
被告人疾病其他正當ノ事
由アリテ令状ニ應スル能ハラ
ズトシテ證明シタル時ハ被告人
ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ
得若シ被告人其管轄地外ニ
在ル時ハ其所在ノ地ノ豫審
判事ニ訊問ノ事ヲ囑託ス可シ

令状

第百二十五條

司
法
第

時拘當云々ノ儀ハ伺ノ通 電報

言 法 書

合 状

調 査 書

時ハ本法其明文ナキモ其者ニ對シ拘留状ヲ發シ
可然哉

又豫審判事檢事禁錮以上ノ見込ヲ以テ拘留
シ公判ニ付シタル場合公判判事ニ於テ罰金以
下ニ該ルヘキモノト思料シタルハ是又大十法
明文ナキモ其拘留状ヲ取消スノ言渡ヲ為シ可
然哉訓示兩項共見解ノ通

松山始審廳判事 十四年十二月廿日請訓
十五年一月廿日訓示 治罪法第

二百七条ニテ檢事ノ發シタル拘留状ヲ存シ其數

十日已ニ盡ルハ同法第百廿七條ノ規則ニ從ヒ處分

スヘキ義ニ有之候哉又ハ豫審判事ニ於テ檢事

ノ請求ナクモ今一度拘留状ヲ發シ得ヘキ義ニ有

之候哉訓示第百二十七條ニ依リ處分ス

第百七条ニテ檢事ノ發
シタル拘留状ヲ存シ其數
十日已ニ盡ルハ同法第
百廿七條ノ規則ニ從ヒ處
分ス

豫審ヲ經スレテ檢事
直ニ公判ニ付シ裁判言渡
アル迄ニ拘留期限ヲ經
過スル場合ニ於テ公判
判事ニ於テ檢察官ノ請
求ニ依リ更ニ日間拘留
為シ又ハ收監状ヲ發ス

金澤始審廳檢事 十五年一月十日同
同年二月一日付 治罪法第百二

十七条豫審判事ハ拘留状ヲ執行シタルヨリ十日

ヲ過ル時ハ之ヲ收監状ニ換ヘ云々トマレハ拘留十日

期限ヲ以テ法律ノ原則トスルハ論ヲ俟ヌ然ルニ

治罪法第百七條第二項及ヒ第百九條ノ規

則ニ從ヒ檢事ニ於テ被告事件豫審ヲ求ムル

ニ及ハスト思料シ拘留状ヲ發シ直ニ輕罪裁

判所ニ其訴ヲ為シ該裁判所ニ於テ實際止

ヲ得ル事務ノ都合ニ依リ自然十日ヲ經過ス

ル場合ニ至リ之ヲ責付シ差支ナキ者ハ無論ナ

リトモ若シ逃亡等ノ恐マル者ノ如キハ檢事

ニ於テ再ヒ拘留状ヲ發シ可然哉指令伺

ノ趣豫審ヲ經スレテ檢事ヨリ直ニ公判ニ付

令狀

治罪法

治罪法

シタル事件ニ付裁判言渡アル迄ニ拘留期
限ヲ経過スヘキ場合ニ於テハ公判判事於
テ治罪法第百二十七條第二項ニ從ヒ檢察官
ノ請求ニ依リ更ニ十日間拘留ヲ為シ又ハ收監
状ヲ發スルヲ得ヘキ義ト心得ヘシ

彦根始審廳檢事

十五年一月廿五日請訓 上畧
同年二月九日訓示

檢事

檢事現行犯ノ被告トシテ
拘留ヲ發シ直ニ公判ニ付
ル後十日ヲ経過スル場合
ニ於テハ公判判事ニ於テ檢
事ノ意見ヲ聽キ之ヲ保釋
責付シ或ハ收監状ニ換テ
ノ処分ヲ為ス

現行犯ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シ訊問、上禁錮
以上ノ刑ニ當ル者ト思料シ拘留状ヲ發シ直ニ
公判ニ付レタル後公判ニ於テ証人ヲ呼出し又辯
論等ノ一ニ付テ十日ヲ経過スル場合ナキニアラス
此場合ニ於テハ公判判事ニ於テ之ヲ保釋責付
シ或ハ收監状ニ換ル等ノ處分ヲ為スヲ得
得ル歟果シテ然ラハ豫メ檢事ノ意見ヲ聽

クハ無論ナル歟、訓示見込、通

令狀

司
法
官

令狀

關
張
嶺

關
張
嶺

然リトセハ檢事ニ於テ意見アル節ハ捺印セサル素
 ヨリ當然ニ付即チ右等ノ令狀ハ御定ノ書式ト
 相違シ豫審判事ニ於テ発スルヲ得ズ治罪法
 ニ於テハ收監狀ニ限り檢事ノ意見ヲ聽タル後
 ニアラサレハ発スルヲ得サルモ勾引狀勾留狀ヲ
 発スルニ檢事ノ意見ヲ聽クナク且收監狀ヲ
 発スルニ當リ檢事ノ意見ヲ聽クモ其意見採用
 スルニ足ラストセハ尚ホ発スルヲ得ヘキ法意ナルヘシ
 然ルニ檢事ハ意見アルヲ以テ收監狀ニ押印セス
 為メニ勾引狀勾留狀ト同シク御定ノ書式ト反
 スルヲ以テ豫審判事ニ於テ発スルヲ得ズ斯ノ
 如キハ到底治罪法ノ精神ト矛盾スルモノ如
 ク覺テ訓示檢事ノ令狀ニ押印スルハ意見

ノ有無ヲ表スルニ非スレテ其執行ヲ公認スルニ
 在リテ第二十八号違ト治罪法ノ精神ト矛盾
 スルナキ者トス

ヲ脱シ私服ヲ着執行スルモ不差支儀ニ候哉
指令 伺ノ通

合状

詞味書

詞味書

十四年第九号布告
外ノ家宅トモモ現行
犯ニ於テハ搜索逮捕ス
ルヲ得

違警言罪係ル被告人
潜匿シタリト思料スルト
モモ日出前日没後ノ家宅
搜索ヲ為スヘラス但現行
犯ニ係ル者ハ此限リニラス

千葉縣十四年十月七日同
四年十月十六日付

治罪法第三百三十三條

第三百三十三條

令状執行ノ

第三項家宅搜索ノ儀ニ付本年十月二日第四十六

号ヲ以テ

中略

布告相成右ハ司法警察官及ヒ巡

査夜中其職務ヲ行フニ當リ現行犯アルヲ知り

逮捕セントスルニ犯人遁逃シテ人ノ家宅ニ隠匿

候場合ニ於テモ右布告外ノ家宅搜索逮捕

スルヲ得サル儀ニ候哉「指令」本年第四十

六号布告外ノ家宅ト雖モ現行犯ニ於テハ搜

索逮捕スルヲ得ル儀ト心得ヘシ

静岡縣十四年十月廿七日同
四年十月二日付

違警言罪係ル被告人

其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潜匿シタリト思料シスルハ

其家宅搜索ノ儀モ實際不得止場合ニ於テハ日出

前日没後ニ拘ハラス十四年第九号公布第

命ヲ受ケタル巡査被告

人其家宅若クハ他人ノ

家宅ニ潜匿シタリト思

料シタル時ハ其地ノ戸長

又其差支アル時ハ隣佑ニ名

以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索

ス可シ巡査眞被告人ヲ發見

シタルト否トニ拘ハラス搜索

調書ヲ作り立會人ト共ニ

署名捺印ス可シ

家宅搜索ハ日出前日没後之

ヲ為スヲ得ス

令状

第百三十三條

同法省

同法省

五項ノ外タリ氏侵入搜索致シ不若哉「指令」伺ノ
趣日ノ出前日没後ハ家宅搜索ヲ為スコラス
但現行犯ニ係ル者ハ此限ニ在ラサル儀ト心得ヘシ

十四年^{九月}廿四日^{九月}第百三十三條第
三項家宅搜索ノ制限有之儀
ハトモ芝居人寄席飲食
店湯屋遊舩宿待合茶屋ノ
類ハ日出前日没後ト虽モ具
営業ヲ為ス時間又旅館屋
貸座敷ハ日出前日没後ニ拘
ラス搜索致シ不若哉

法律

令状

法律

被告事件急速ヲ要セ
 廿七時ト云々其場合ニ依リ
 令状ヲ帶行シ或ハ郵便送
 スルヲ得尤モ其事件ノ緊急
 ニ依リ電信又ハ郵便ヲ以テ
 被告人所在ノ地ノ豫審判
 事ニ屬託スルヲ得

仙臺裁判所判事

三年十月十日請訊
 四年七月廿三日訊示

第百三十一條

第百三十四條

豫審判事

四條ニ被告人他ノ管轄地内ニ潛匿シタルヲ知り
 タル場合ニ於テ急速ヲ要スルハ巡査令状ヲ帶
 行セシムルヲ得トスルニ及シテ急速ヲ要セサル場
 合ニハ巡査ヲシテ他ノ管轄地内ニ令状ヲ帶行セシ
 ムルヲ許サル者ノ如シ然ルニ第百三十二條ニ於テ令
 状ハ日本全国ニ於テ執行スヘキ者ト指定セラレタル
 ハ少シク抵觸アルカ如シト虽モ第百三十二條ハ令
 状ノ力全国ニ於テ執行シ得ヘキノ効アルノミ
 ヲ指示シテモト看做シ通常他管轄(逃走
 セシ被告人ヲ追捕スル場合ニ犯罪ノ地ノ豫審判
 事ニリ郵便ヲ以テ被告人所在ノ地ノ豫審判事
 ニ令状ヲ送致シテ之レヲ執行ヲ要スヘキ者歟或

ハ被告人他ノ管轄地内ニ潛
 匿シタルヲ知り又ハ潛匿シタ
 リト思料シタル場合ニ於テ被告
 事件急速ヲ要スル時ハ巡査ニ
 令状ヲ帶行セシムルヲ得
 巡査ハ被告人所在ノ地ノ豫審
 判事檢事又ハ司法警察官ニ令
 状ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可
 シ

令状

第百三十四條

司法官

請訊

巡查執行ノ求ヲ受ケタル官吏ノ指揮ニ從フ

ハ電報飛信等ヲ以テ被告人所在地ノ豫審判事ニ囑託シテ令状ヲ發セシム可キモノカ「訓示」急速ヲ要セサル時トモ其場合ニ依リ令状ヲ帶行シ或ハ郵送スルヲ得尤其事件ノ緩急ニ依リ電報又ハ郵便ヲ以テ被告人所在地ノ豫審判事ニ囑託スルヲ得ヘシ

兵庫縣十四年十月八日局治罪法第百三十四條第二項ニヨリハ巡查ハ被告人所在地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ令状ヲ示シテ即時執行ヲ求ムトアリ此手續ハ其官吏ノ認知ヲ終結セテ援助ノ指揮ヲ請求スル儀ナルヤ又ハ其地ノ巡查ヲ使テ執行セシメテ求ムル儀ニ有之候ヤ「指令」執行ノ求ヲ受ケケル官吏ノ指揮ニ從フ儀ト心得ヘシ

被告事件急速ヲ要スルハ巡查ニ令状ヲ帶行セシムル場合ハ警察署ニ照會シテ巡查ヲ呼出シ命ジテ令状ヲ帶行セシメ急速ヲ要セサルハ被告人所在地ノ各警察署ニ令状ヲ交付執行セシム

他ノ管轄地内ナルヲ以テ被告人所在地ノ豫審判事檢事司法警察官ニ具執行ヲ求ム但急速ヲ要セサル場合ハ被告人所在地ノ豫審判事又ハ司法警察官ニ令状ヲ封送シテ具執行ヲ求ム

盤井始審廳判事外五名十四年十月十日請訓治罪法第百三十四條被告事件急速ヲ要スルハ巡查ニ令状ヲ帶行セシムル場合ハ警察署ニ照會シテ巡查ヲ呼出シ命ジテ令状ヲ帶行セシメ其事件急速ヲ要セサルハ被告人所在地ノ各警察署ニ令状ヲ交付シ執行セシメ可然哉「訓示」見込ノ通

岡山始審廳檢事十四年十一月十日請訓治罪法第百三十四條豫審判事ハ他ノ管轄地内ニ潛匿云々トハ即チ前條他人家宅ニ潛匿云々ノ文意ヲ承テ他ノ管轄地内ニ在テ他人家宅ニ潛匿シクル者ヲ逮捕セシムル時ノ一ヲ謂フ乎若シ況リ他ノ管轄内ニ在逃シクル時トナセハ急速ヲ要セサル場合ニ於テハ令状ヲ發スルヲ得サル如ク相見ハ第百三十二條ノ原則ニ悖リ

令状

刑法

書ヲ印刷シ各檢事及
警察署ニ送付ス

第三百三十五條ノ場合ニ
於テハ檢事ヨリ豫審
判事ニ令狀ヲ送スヘ
キ一ヲ請求ス

豫審判事重軽罪ニ
對シテハ捜査及ヒ

逮捕ノ處分ヲ各控
訴裁判所檢事長
ニ請求スルトモ右ト
ハ意見ニ任ス又ニ
控訴裁判所檢事
長ニシテ其請求ヲ
為ス一ヲ得

豫審判事ヨリ差出シタル人相書ヲ送付スルモ各檢
事ハ僅カニ通ワツニ付テハ事機緊急ヲ要スル場合
ノ如キ謄寫等ノ不便ヲ免カレサルヲ以テ人相書數枚
ヲ印刷シ各檢事及ヒ警察署ノ數ニ應ジテ送付ス
可キ哉 指令 伺ノ通

長岡始審廳檢事十五年一月廿四日訓示 治罪法中
ハ本年本省丙第一号書式

檢事ニ於テ令狀ヲ送スル一ヲ得ルハ現行犯ノ場合ニ照依シテ人相書ヲ作り其
ニ限ル者ト相考ヘ候得共治罪法第三百三十五條
末項ニ依リ捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ受ケタル檢
事ハ此例外ト為シ直ニ令狀ヲ送シ不苦候哉
ヲ作ルヘシ此旨相達候事

訓示 第三百三十五條ノ場合ニ於テハ檢事ヨリ豫
審判事ニ令狀ヲ送スヘキ一ヲ請求スヘシ

甲府始審廳檢事十五年一月廿四日訓示 治罪法第
百三十五條豫審判事ヨリ控訴裁判所檢事長ニ對
シテ捜査及ヒ逮捕ヲ請求スルハ多クハ重罪犯ニ係
ル者ト心得居候處今回東京控訴裁判所檢事
長ヨリ横濱輕罪裁判所豫審判事ヨリ請求セ
ル雇人盜ニ係ル被告人逃走シ其所在ヲ知ラサルヲ
以テ捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ為スヘキ旨告達
有之右ニ依レハ一應ノ輕罪ニ係ル盜罪ト雖
モ悉ク全國中捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ請求セ
サルヲ得サル者ノ如シ然レテ該條中重軽罪ヲ
區別スヘキノ明文ナキヲ以テ其請求ヲ為ス
モ妨ナキニ似タリ然レテ該條ノ趣旨如何ニ溯リ
愚考スルニ中畧 右ハ現今當裁判所豫審中ノ犯
犯罪者ニシテ其所在ヲ知ラサル者數十人百之候間

合狀 第三百三十五條ノニ

同 法 省

人相書ニ符合シタル者ト見認メタルハ別ニ令状ヲ要セス直々ニ逮捕スルヲ得

為心得請御内訓訓示重軽罪ニ拘ハラス捜査及
 逮捕ノ要分ヲ各控訴裁判所検事長ニ請求ス
 ルト否トハ豫審判事ノ意見ニ任ス又豫審判事ハ
 一二ノ控訴裁判所検事長ニ其請求ヲ為ス
 ヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ

京都始審廳檢事十五年一月廿七日請訓治罪法第

三十五條第二項ノ規則ニ依リ檢事長ヨリ捜査及ヒ
 逮捕ノ指揮ヲ受ケタル場合ニ於テ捜査上其人相
 書ニ符合スヘキ者ヲ認知シタルハ別ニ令状ヲ要
 セス其人相書ヲ以テ令状同一ノ効力ヲ有シタル者
 ト見効シ直々ニ逮捕ノ要分ニ及ヒ可然哉
 又ハ通常ノ規則ニ從ヒ被告人所在地ノ豫審
 判事ニ請求シ令状ヲ發シタル上逮捕スヘキ

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シテ令状ハ控訴裁判所檢事長ニ關係ナク直々ニ豫審判所檢事ヨリ發ス

儀ニ候哉訓示請訓ノ趣其者ヲ取押ヘ果
 シテ人相書ニ符合シタル者ト認メタル
 片ハ別ニ令状ヲ要セス直々ニ逮捕スル
 ヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ

大坂控訴廳檢事長十五年一月廿五日附既決囚

ノ逃亡シタル者ニ對シテ發スル令状ハ其刑
 ノ執行ヲ為ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ
 發スル儀ト心得旨十四年丙第二十号ヲ以テ
 御達有之候處右ノ如キ場合ニ於テ該檢事逃
 亡人ノ所在ヲ知ルヲ得サル片ハ之ヲ管轄スル控
 訴裁判所檢事長ニ申立檢事長ヨリ管内
 各檢事ニ捜査逮捕ヲ命ジ且ツ他人控訴裁判所
 檢事長ヘモ此事ヲ請求スル儀ニ有之候哉又該

檢事ヨリ直々ニ各控訴裁判所檢事長ニ捜査逮捕
ヲ請求スルヲ得ル儀ニ候哉「指令」明治十四年本
省丙第二十号達既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ
發スル令状ハ控訴裁判所檢事長ニ關係ナク直
ニ始審裁判所檢事ヨリ發スヘキ者トス

司法省

令状

司法省

軍人軍屬ノ犯罪ハ通
常裁判所ニ於テ處
分スルヲ得ス

松山始審廳判事

十四年五月一日請訓
十五年一月十日訓示

治罪法第百三十一條第百三十六條 陸海軍在

六條ニテ被告人差支ノ為メ令状ニ應ヤサルトキハ

營ノ軍人軍屬ニ對シ令

同法第百二十五條ノ規則ヲ適用スヘキ乎將々法律

状ヲ發シタル時ハ所屬

ハ軍門ニ不及トノ原則ニ依リ其出廷ヲ待ツヘキ儀

長官ニ令状ヲ示ス可シ

ニ有之候哉但其所屬長官ニ於テ第百二十

長官ハ已ムヲ得サル

五條ノ規則ヲ適用スルヲ許諾シタル場合如何

差支アルニ非サレハ本

右在營ノ軍人軍屬ト虽モ行軍ニアラスレテ營

人ヲシテ速ニ令状ヲ應

外ニ在ル時^{（待歩）}ハ通常ノ規則ニ從ヒ令状ヲ本

セシム可シ其行軍ノ際

人ニ示シ直々ニ執行スヘキハ勿論ノ儀ニ有之候亦同シ

哉訓示軍人軍屬ノ犯罪ハ通常裁判所

於テ處分スルヲ得ス^{（理由）}内閣書記官ヨ

令状

第百三十六條

司

法

省

令狀

司
錄
省

司
錄
省

第三百三十七條 勾留状又
 ハ收監状ヲ受ケタル被
 告人ハ速ニ其令状ニ記
 載ニタル監倉ニ引致ス
 可シ若シ其監倉ニ引致
 スルニ能ハサル時ハ假
 ニ最近ノ監倉ニ引致ス
 ルヲ得
 何レノ場合ニ於テモ監
 倉長ハ令状ヲ檢閲シテ
 被告人ヲ受取リ其證書
 ヲ渡ス可シ

第百三十八條 令狀執行
 ノ命ヲ受ケタル巡查ハ
 之ヲ執行シタルヲ又執
 行スルヲ能ハサル時ハ
 其事由ヲ令狀ノ正本ニ
 記載ス可シ
 巡查 令狀執行ニ関ス
 ル書類ヲ書記局ニ差出
 シ書記ハ其受取證書ヲ
 渡ス可シ

令狀
 第百三十八條

第三百三十九條 勾留狀又
 ハ收監狀ヲ受ク可キ被
 告人既ニ監倉若クハ獄
 舎ニ在ル時ハ書記ヨリ
 之ヲ本人ニ送達シ其旨
 ヲ正本及ヒ謄本ニ記載
 ス可シ

第四百十一條 豫審判事
 ハ被告事件禁錮以上ノ
 刑ニ該ル可キ者ニ非ス
 ト思料シタル時ハ豫審
 中何時ニテモ勾留狀又
 ハ収監狀ヲ取消ス可シ
 但收監狀ヲ取消ス時ハ
 豫メ檢察官ノ意見ヲ聽
 ク可シ

第四百十二條 監倉ニハ
 刑法治罪法ヲ備置キ被
 告人ノ請求ニ從ヒ之ヲ
 貸與ス可シ

第四百五條 密室監禁
 ハ十日ヲ超過ス可カラ
 ス但十日毎ニ其言渡ヲ
 更改スルヲ得
 言渡ヲ更改スル時ハ其
 事由ヲ裁判所長ニ報告
 ス可シ
 豫審判事ハ十日間ニ少
 クトモ二度被告人ヲ訊
 問シ通常ノ規則ニ従ヒ
 調書ヲ作ル可シ

第三節 證據

第四百十六條 法律ニ於

テハ被告事件ノ模様ニ

因リ有罪ナルノ推測ヲ

定ムルコトナシ

被告人ノ白狀官吏ノ檢

証調書證據物件証人ノ

陳述鑑定人ノ申立其他

諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ

判定ニ任ス

第四百十七條 豫審判事
ハ檢察官民事原告人被
告人ノ請求ニ因リ又ハ
職權ヲ以テ事實發見ノ
為メ必要ナリトスル証
據徴憑ヲ集收ス可シ

ヲシテ立會ハシム可シ
前項ノ場合ニ於テハ豫
審判事自ラ調書ヲ作り
之ヲ讀聞カセ立會人ト
共ニ署名捺印ス可シ
書記又ハ立會人ナクシ
テ為シタル處分ハ其效
ナカル可シ

第四節 被告人ノ
訊問及ヒ對質

第四百十九條 豫審判事
ハ先ツ被告人ヲ訊問ス
可シ但檢證ヲ為シ又ハ
証人ヲ訊問スルニ付キ
急速ヲ要スル時ハ此限
ニ在ラス

被告人ノ訊問及ヒ對質 第四百十九條

同 條 第 四 節

第百五十條 豫審判事ハ
被告人ヲシテ其罪ヲ白
狀セシムル為メ恐嚇又
ハ詐言ヲ用フ可カラス

被告人訊問及ニ對質 第百五十條

司
法
省

可シ

証人

第五百十二條 被告人其陳
 述ニ付キ變更増減ス可
 キヲ申立タル時ハ更ニ
 訊問ヲ為シ前條ノ規則ニ
 從ヒ其訊問及ヒ陳述ヲ
 録取シ之ヲ讀聞カセ署名
 捺印ス可シ

被告人ノ訊問及ヒ對質
 第五百十二條

司
 法
 官

謄本ノ寫料ハ其求
ヲ為シタル者ヨ
リ取立

開拓使刑法課

十五年二月七日同
同年同月十日付

治罪法第百五十

第百五十三條 被告人ハ

三條ニアル謄本ノ寫料ハ被告ヨリ取立ルヲ得サル歟
「指令」伺、趣ハ其求ノヲ為シタル者ヨリ取立

陳述書ノ謄本ヲ求ムル
ヲ得

ヘシ

被告人訊問及ヒ對質 第百五十三條

同 條 旨

同 條 旨

第百五十五條 書記ハ對質人
ノ陳述及ヒ對質ニ因リ生
スル一切ノ事件ヲ録取シ對
質人ニ其對質ニ関スル部
分ヲ讀聞カス可シ

第百五十一條第百五十二
條ノ規則ハ對質ニ付テモ
亦之ヲ適用ス

被告ノ訊問及ヒ對質ニ第百五十五條

司
法
省

被告之訊問及對質

司
長
官

司
長
官

